



# 魂のパワー全開

永田円了

## Beyond Your Mind

人がこの世に生まれたのは、偶然なのか、必然なのか。人間には 46 の染色体があり、男性 23、女性 23 の染色体が一緒になり新しい生命が誕生する確率は、23 の 23 乗分の 1、70 兆分の 1 の確率である。これは、太平洋の真ん中に針一本を投げ入れ、もう一度見つけることのできる確率、つまり有り得ないこと、だから“有り難い”という言葉が誕生したのである。



あり得ない、しかし一度だけこの世に頂いた命を使うために、天は一人ひとりに魂のパワーを授けたものと私は考える。さて、このパワーをどう引き出したらいいのだろうか。天から授かったこの魂のパワーを少しでも引き出すために、どのような助力が必要とされるのか。これが今回のテーマである。

NHK『秋つながる心～見えないことは、不幸じゃない～』（2008年11月6日放映）で紹介された、福原理絵さん家族の事例です。



理絵さんも夫の良英さんも全盲です。お子さんは二人、長女の立春香（はるか）ちゃん（6歳）も全盲、家族で次女の明葉（あきは）ちゃん（4歳）だけが目が見える。この家族の子育てが私の魂を共鳴させた。

その日はパパの誕生日、楽しいはずの食卓での出来事だった。長女の立春香ちゃんが、お皿を落としてしまう。割れた皿の破片に怖がる立春香ちゃんに、お父さんは、「自分で拾いなさい」と命令する。手を切るから怖いと、泣き叫ぶ立春香ちゃんに、良英さんは容赦はしない。「拾え、拾え！」とナイロン袋を渡し、テーブルの下で割れた皿の破片を全て素手で回収させるのでした。

### 目が見えないことを、言い訳にしない

見えないのだから、できない、分からない、しょうがない、諦める、という考えでは、前に進めない。決して、目が見えないという特殊性を売り物にしないのです。

### “お世話してね” は、間違った認識

家族で唯一目が見える次女の明葉ちゃんが、お母さんの手を引いている姿に近所の方が同情を示した。それに対して理絵さんは答える。

「目が見えるあなたに、お世話をしてもらう気持ちはありません。何よりも、あなたがそのような重荷をしょわないようにしてほしい」「あなたは、視覚から得られるたくさんのことを、私たちに教えてください。これは、お世話ではなく、人間として当たり前のことです」「一人ひとりが、できることを誰かに提供する、これが本来あるべき姿だと思いませんか」と。



理絵さんは、次女明葉ちゃんに手紙を書く。「私は残念ながら、あなたの表情を目で見ることはできません。でもいつもあなたの心の声が聞こえるように、耳を澄ませています」**魂のパワーを全開にして**

#### <事例>

真国寺仏像、マンゴーの実が指から生えている

よけいな介護が自立を妨げる NHK クローズアップ現代 12/15/2005

米国映画『レイ』より、息子に手を貸さない母親

NHK『秋つながる心～見えないことは、不幸じゃない～』2008年11月6日

福原理絵さん一家の、自立した生き方